

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	外国語2(英語)	
科目基礎情報					
開設学科	ダンスパフォーマンス科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	萩原岳		実務経験の有無・職種	有・レコード会社海外アーティスト編成担当、通訳、講師、ナレーター	
学習目的					
実用性のある英語を活用したコミュニケーション能力の向上。英語力習得の価値の理解。異文化に触れることでの多様性の理解。学校受験目的の勉強で起きてしまっている英語に対してのアレルギー反応の除去。技術の進歩によって、IQの向上よりEQの向上が合理的だと言うことの理解。（勿論IQ向上も大切ではありますが。）					
到達目標					
具体的にはダンスパフォーマンスに役立つ、活用出来る英語の習得。声の出し方のボリューム・アップ。検索力の向上。国際的な活躍が出来るダンサーとしての語学力の基礎を作る。					
教育方法等					
授業概要	講師の英語を聴きながらのテキストの読み合わせ。分からない単語のメモ。授業後、次の授業までに意味の検索。画像、映像視聴。ダンス授業・レッスンで使用される英語歌詞楽曲を活用しての授業。ゲスト講師等を導入しての授業の実施。				
注意点	教員と学生、学生間のコミュニケーションの重視。楽しい（得だ）と思ってもらうこと。押し付けないこと。腹落ちするまでの面談の実施も検討。進行状況によっての後期での上方・下方修正。良い案を取り入れることに対しての柔軟性。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	40%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス、テキスト Chapter10前半の実施		レビュー、レッスン中に使われる英文例の理解		
2回	ガイダンス、テキスト Chapter10の前半の復習、Chapter10後半の実施		レッスン中に使われる英文例の理解		
3回	ガイダンス、テキスト Chapter10後半の復習、Chapter11の実施		レッスン後の質問の仕方の英文例の理解		
4回	ガイダンス、テキスト Chapter11の復習、Chapter12の実施		怪我などした時の伝え方、対応の理解		
5回	ガイダンス、テキスト Chapter12の復習、Chapter13の実施		スタジオの不都合などの伝え方の理解		
6回	ガイダンス、テキスト Chapter13の復習、Chapter14の実施		先生からのお知らせなどの英文例の理解		
7回	ガイダンス、テキスト Chapter14の復習、Chapter15の実施		先生への質問などの英文例の理解		
8回	ガイダンス、テキスト Chapter15の復習、Chapter16の実施		SNSやブログなど自身の宣伝、アピールの仕方の英文例の理解		
9回	ガイダンス、テキスト Chapter16の復習、Chapter17の実施		ダンスの進路についての相談の英文例の理解等		
10回	英語実技発表2		修得状況、理解度を確認		
11回	総合的なまとめ		自分で英語を学習していくためのガイダンス		
12回	英会話術 1		旅行やレストランなどで使える英会話 1		
13回	英会話術 2		旅行やレストランなどで使える英会話 2		
14回	英会話術 3		旅行やレストランなどで使える英会話 3		
15回	英会話術 4		旅行やレストランなどで使える英会話 4		